

東大EMPが目指す課題設定・形成能力の育成 と日EU関係へのインプリケーション」

*Fostering Agenda-Shaping Leadership
as an Objective of
the Tokyo University EMP
and
Its Implications for future Japan-EU Relationship*

日EU関係ワークショップ

2009年10月25日

横山禎徳

東京大学EMP 企画推進責任者

はじめに、自己紹介を兼ねて、EUとの個人的な関わりを御説明したい

- 30年近くマッキンゼーで経営コンサルティングに従事し、グローバル・ファーム、米語の世界で生活
- 1990年代半ばに米語で世界を見ていることの問題を感じ、2002年定年退職後、エクス・アン・プロバンスと東京を行き来する生活を開始
- フランスの田舎町からEUの展開を眺めることを数年経験し、政治と庶民生活のギャップを体験
- 最近の2年間は多極構造化する世界において、日本を越えて存在感を示すことの出来る「エリート」養成のプログラムを東大総長に頼まれ、企画し推進

フランスの田舎町から眺める生活実感としてのEUはあらゆる面でまだまだ発展途上

- EUはヨーロッパ理想主義か、ユーロ・セントリズム的覇権主義なのか、両方なのかあいまい
- 政治家の願望と地方の庶民の生活感との乖離は中々埋まらないままことが進む
- ユーロは便利だが、例えば、電気のコンセント、高速道路の標識の色は統一されそうもない
- フランスとドイツの密接な連携を印象付けることは意識的に強く打ち出されている

新しい時代の展開に呼応した人材育成を行う 「東大EMP」という実験を2008年に開始した

- 多極型覇権構造の世界で、世界史的にもまれな「覇権主義になれない、ならない大国」であり、今や中途半端な規模の日本という認識からスタート
- 中国、アメリカ、EUとは違う、世界的普遍性のある日本の自己主張を担えるレベルの総合的能力を持った人材を創出する必要性
- そのため、大学院でもない、プロフェッショナル・スクールでもない、ボケーショナル・スクールでもない新たな人材鍛錬の「場」を試行錯誤しながら追及

「東大EMP」という実験を2008年から開始

1. 「課題設定能力」を持ち、英語はあまりうまくはないが、堂々として存在感があり、話してみると自己表現も明快に出来、基軸がしっかりして、公共精神があり、ちょっと強引だが、とても魅力のある人物をつくる
2. 「ないないづくし」に徹している
 - ・Bスクールでも、高級カルチャーセンターでもない
 - ・受講生は毎回新たに募り、「メンバー企業」は募らない
 - ・未知のことを中心に議論し、分かっていることは教えない
 - ・単なるリーダーシップ論はやらない
 - ・英語は前提であり、特別注力しない
 - ・講師、受講生の評価はしない
 - ・OB会を活発にするが同期会はない

唯一

社会人向けのマネジメント・プログラム

EMP 東京大学 エグゼクティブ・マネジメント・プログラム

The University of Tokyo Executive Management Program

2008年10月開講 年2回実施(10・3月 / 4・9月)

講義会場: 本郷キャンパス内 総合図書館大会議室

<http://www.emp.u-tokyo.ac.jp>

EMO事務局 | 03-5293-6135 | info@emp.u-tokyo.ac.jp

無二

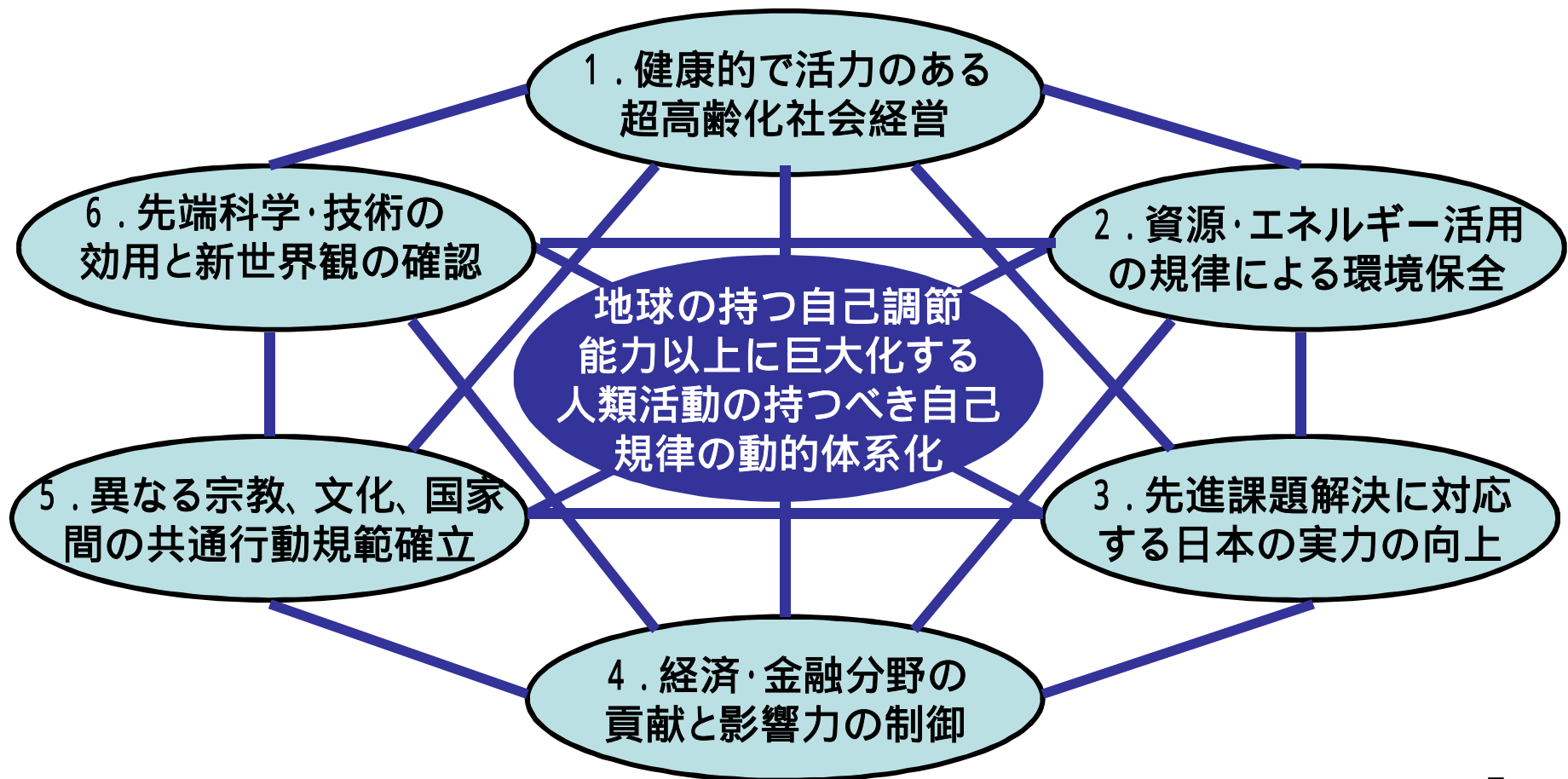
東京大学

「課題設定能力」の涵養が目的であり、その基盤として「知の構造化」を試みる

- 多種、多様である講義群をばらばらの教養ではなく、一貫性のある思考力訓練に結びつける
- 既存の学問領域の間に存在するため、あまり語られることの無い重要課題に目を向ける
- 伝統的な「理工系」、「人文系」という枠組みから脱し、より統合的な視点から新鮮な議論をする
- あらかじめ構成されたテーマの受動的受講ではなく、能動的にテーマを組立てる思考を促す

「知の構造化」を頭におき、「心ここに在らざれば、
視れども見えず、聴けども聞こえず」を避ける

「教養・智慧」プログラムの扱う課題



講師陣に最先端の課題を提示し、受講者との刺激的な議論を要求している

- 枠組みに沿った講義を約110コマ提供し、50コマはマネジメント知識、コミュニケーション・スキルとアドホックな特別講義
- テーマの多様性を重視し、専門性が高く、かつ、多様な視点をもった講師陣が参加
- すべての分野において、まだ結論の見えていない最先端の課題に集中し講義
- 単なる先端知識の修得ではなく、先端分野特有の思考プロセスの理解を重視

課題分野の例

健康的で活力のある
超高齢化社会の経営

超高齢化社会のフロントランナー日本の挑戦

医療課題総論

医学史 - 東京大学医学部からみた日本の近代医学史

社会システム・デザインから見た医療システム

データベースと医療政策

社会保障政策の企画立案における実証研究の意義

科学的根拠に基づく食と健康の科学

環境・食品中の化学物質のリスクをどのようにとらえるか

変化する世界・日本の製薬産業の構造・国際戦略

医薬品の研究開発:生活習慣病治療の最先端

進化する治療ロボット

グローバル・ヘルス

研究医の不足 - 現状の解析と打開の方策

分子標的薬の現状と展望

薬を創る化学

記憶の神経細胞集団による表象

糖鎖生命科学のすすめ

進化する治療ロボット

バリアフリーという戦略

「聴く」「話す」「見る」のを助ける福祉工学と脳科学

少子高齢社会のQOLを高めるIRT

テーマ間の関係の中で発生する課題の議論を盛り上げるように演出している

- 分類した主要テーマ間に新たな課題が多く存在するが、実際に議論する「場」は少ない
- 「分かっていないことを議論する」ためにはあえて複数のテーマ間に存在する課題を扱う
- 複数分野の講師の参加を考えるなど、議論の盛り上げを工夫している
- 議論の取っ掛かりとしての課題を以下に例示としてリストアップする

テーマ間に存在する課題を取り上げ、 議論を進める

<1 - 2> 「超高齢化社会経営」・「日本の先端課題解決能力」

- 超高齢化社会到来という先進課題を逆手にとった日本の課題解決能力向上策は何か？現在すでに実施されているのか？
- 日本の真の実力を国民はどのように理解し、認識しているのか？その理解を向上するにはどうしたらいいのか？
- 日本の構造的弱みになっている部分はなにか？超高齢化によってそれはどのように影響を受けているのか？

<5 - 6> 「宗教・文化・政治間の共通行動規範」・「先端科学・技術」

- 先端科学・技術が国家覇権主義に使われることは必然なのか、汎宗教的展開はありえないのか？
- 文化的特質が特定の科学の先端性に有利、あるいは不利に結びつくような構造はありえるのか？
- 先端科学・技術の展開が既存の宗教・文化・政治の枠組みを壊すような世界観および哲学を提示する可能性はないか？

各国大使もEMPに対して協力的

1 . Developments in Iran

Seyed Abbas Araghchi,
Ambassador, Embassy of Iran

2 . Nation on the Move

Sanjay Bhattacharyya,
Deputy Chief Mission, Embassy of India

3 . Germany & EC

Hue Richardson, Ambassador,
Embassy of Germany

4 . On USA (TBD)

John V. Roos, Ambassador,
Embassy of USA

EUは日本との互惠関係を期待するのであれば大学との関係を大事にすべき

- 世界の先端課題の解決のためには知的資産の共同活用を通じての相乗効果を求めざるを得ない
- 知的資産の多面的集積に関して、近年、大学の役割は増大している
- エコシステム科学、物性科学、薬学、宇宙・素粒子物理学、生物化学、など世界の最先端科学分野が日本に存在 — 日本は「ものづくり」だけではない
- EUが外交を超えて、直接、大学等の先端機関にも関心を示すことを期待する